

平成 29 年度 びわ湖周遊情報発信事業・びわ湖の魅力体験促進事業
「琵琶湖周航の歌」をテーマとしたワークショップ+湖上観測会 実施報告書

平成 29 年度 びわ湖周遊情報発信事業・びわ湖の魅力体験促進事業

「琵琶湖周航の歌」をテーマとした
ワークショップ+湖上観測会

実施報告書

平成 30 年 3 月
株式会社 地域計画建築研究所

目次

1. 事業の目的と方法	1
(1) 事業の目的	1
(2) 事業の概要	1
①湖上観測会	1
②ワークショップ	3
2. 「琵琶湖周航の歌」に係る講演・ヒアリング	5
(1) 湖上での「琵琶湖周航の歌」に係る講演	5
①講師紹介	5
②講演の概要	5
③配布資料（抜粋）	6
(2) 京大ボート部 OB・OG 会「濃青会」ヒアリング	7
①ヒアリング対象者	7
②ヒアリング概要	7
③ヒアリング要旨	7
④ヒアリング参考資料	8
3. ワークショップ講演「琵琶湖周航の歌を生かした周遊観光に向けて」	9
①講師紹介	9
②講演の概要	9
4. ワークショップの成果	11
(1) 大津市	11
①参加者	11
②「琵琶湖周航の歌」歌詞	11
③三保ヶ崎におけるアウトプット	11
④雄松崎におけるアウトプット	11
(2) 高島市	15
①参加者	15
②「琵琶湖周航の歌」歌詞	15
③今津港におけるアウトプット	15
(3) 長浜市	17
①参加者	17
②「琵琶湖周航の歌」歌詞	17
③竹生島・長浜市内におけるアウトプット	17
(4) 彦根市	19
①参加者	19
②「琵琶湖周航の歌」歌詞	19
③彦根港におけるアウトプット	19
(5) 近江八幡市	21
①参加者	21
②「琵琶湖周航の歌」歌詞	21
③長命寺におけるアウトプット	21

5. ワークショップ・湖上観測会の参加者アンケート	23
(1) 概要	23
(2) 分析結果	23
(3) 詳細結果	23
①基本情報	23
②「琵琶湖周航の歌」をテーマとする観光振興について	24
③「琵琶湖周航の歌」についての自由なご意見	26
④ワークショップに参加して、「琵琶湖周航の歌」に対する期待度が 変化したか	26
⑤④について、変化の内容	26
⑥ワークショッププログラムについて	27
⑦湖上観測会について	28
⑧モニターツアーへのご意見	28
6. 参加者名簿	29

1. 事業の目的と方法

(1) 事業の目的

「琵琶湖周航の歌」に関連した自治体（大津市、高島市、長浜市、彦根市、近江八幡市）の観光行政関係者、観光関連団体・事業者、経済団体関連者、地元団体を対象として、琵琶湖周辺の観光資源の発信、観光誘客の促進を目的に、地域の魅力となる資源の発掘・洗い出しを行うワークショップを実施する。

また、ワークショップの議論をより深めるため、「琵琶湖周航の歌」の舞台を巡る「湖上観測会」及び、歌の生まれた京都大学ボート部（旧制三高水上部）OB・OG 会へのヒアリングを実施し、ワークショップ参加者に正確かつ臨場感ある情報を提供する

「琵琶湖周航の歌」歌詞と対応する市：

大津市	三保ヶ崎	1 番	われは湖の子 さすらいの 旅にしあればしみじみと 昇る狭霧や さざなみの 志賀の都よ いざさらば
	雄松崎	2 番	松は緑に 砂白き 雄松が里の 乙女子は 赤い椿の 森影に はかない恋に 泣くとかや
高島市	今津港	3 番	波のまにまに 漂えば 赤い泊火なつかしみ 行方定めぬ 浪枕 今日は今津か 長浜か
長浜市	竹生島	4 番	瑠璃の花園 珊瑚の宮 古い傳への 竹生島 仏の御手に いだかれて ねむれ乙女子 やすらけく
彦根市	彦根港	5 番	矢の根は 深く埋もれて 夏草しげき 堀のあと 古城にひとり 佇めば 比良も伊吹も 夢のごと
近江八幡市	長命寺	6 番	西国十番 長命寺 汚れの現世遠く去りて 黄金の波に いざ漕がん 語れ我が友 熱き心

(2) 事業の概要

①湖上観測会

日時：平成 30 年 3 月 6 日（火）10:00～13:00(9:45 集合)

場所：乗船／大津港 下船／今津港

対象：

WS 参加者／大津市・高島市・長浜市・彦根市・近江八幡市より WS 参加者のうち希望者（13 名）

ゲスト／WS 講師 金井先生、琵琶湖周航の歌資料館 村井館長、京大ボート部 OB・OG 会「濃青会」会員 辻井氏

サポート／公益社団法人びわこビジターズビューロー、株式会社日本旅行



[湖上観測会]実施中の様子

プログラム：

場所	内容
大津港	<ul style="list-style-type: none"> 参加者集合 乗船、着席
三保ヶ崎沿岸	<ul style="list-style-type: none"> 「三保ヶ崎」解説（村井館長） 主催者からのご挨拶（ビューロー事務局長・天川氏） 趣旨説明（アルパック） 「琵琶湖周航の歌」解説（村井館長）
長命寺沿岸	<ul style="list-style-type: none"> 「長命寺」解説（村井館長）
雄松崎沿岸	<ul style="list-style-type: none"> 「雄松崎」解説（村井館長） 昼食 「琵琶湖周航の歌100周年記念事業」にて執り行われた「なぞり周航」まとめ映像の上映（濃青会提供）
竹生島沿岸	<ul style="list-style-type: none"> 「竹生島」解説（村井館長）
今津港沿岸	<ul style="list-style-type: none"> 「今津港」解説（村井館長）
今津港	<ul style="list-style-type: none"> 「湖上観測会」終了

※当日の強風のため、長命寺沿岸へは船を寄せず。

※終了後、「琵琶湖周航の歌資料館」を見学



(参考) 琵琶湖周航の歌100周年記念事業 「なぞり周航」コース

船舶：琵琶湖汽船株式会社より、高速船「インターラーケン」をチャーター



②ワークショップ

日時：平成 30 年 3 月 6 日（火）13:30～17:00(13:00 開場)

場所：今津東コミュニティセンター「大ホール」

対象：

参加者／大津市・高島市・長浜市・彦根市・近江八幡市の観光行政関係者、観光関連団体・事業者、地元団体等

サポート／公益社団法人びわこビジターズビューロー、株式会社日本旅行

プログラム：

	項目	内容	
第 1 部	開会挨拶	・WS の開催目的、成果活用法	
	講演	・「琵琶湖周航の歌を生かした周遊観光に向けて」 講師／金井 萬造 氏 (立命館大学経済学部 客員教授／BKC 社系研究機構 上席研究員)	
	World Café 説明	・時間割 ・World Café 実施の方法と留意点	
第 2 部	World Café	World Café I	●テーマ「アピール出来る地域資源を棚卸ししよう」 ・各市毎にテーブルに別れ、市関係者により歌碑周辺の魅力資源を棚卸し
		World Café II	●テーマ「来訪者目線で他所の地域資源を評価しよう」 ・他所地域のテーブルへ移動 ・移動先について、来訪者目線からの意見を追加
		休憩	
		World Café III	●テーマ「来訪者の声を踏まえてセールスポイントを絞り込もう」 ・World Café I、II の結果を踏まえ、地域の魅力資源を再評価・観光コース検討
第 3 部	報告	・各市毎にワークショップの成果を報告	
	総評	・講師による、成果報告へのコメント	
	閉会挨拶	・主催者からのご挨拶（広報情報部部長心得 船橋氏）	
	閉会	・感想用紙 記入	

※World Café について

ワールド・カフェとは、アニータ・ブラウン氏とデイビッド・アイザックス氏によって、1995 年に開発・提唱された手法です。「カフェのようなくつろいだ空間と時間でこそ、自由闊達で創造的な会話が可能」との思想から、会話と移動を繰り返しながら「集合知」をみつけていく WS です。

平成 29 年度 びわ湖周遊情報発信事業・びわ湖の魅力体験促進事業
「琵琶湖周航の歌」をテーマとしたワークショップ+湖上観測会 実施報告書



World Café の様子

2. 「琵琶湖周航の歌」に係る講演・ヒアリング

(1) 湖上観測会における「琵琶湖周航の歌」に係る講演

「湖上観測会」において、「琵琶湖周航の歌」誕生の経緯や現在に至るまでの歴史等について参加者に正確な情報を提供し、ワークショップのヒントとしてもらうことを目的に、「琵琶湖周航の歌」について造詣の深い「琵琶湖周航の歌資料館」館長の村井佳子氏を招聘し、講演を実施した。

①講師紹介

- 村井 佳子氏（琵琶湖周航の歌資料館 館長）
 - ・平成 18 年今津町観光協会（現在のびわ湖高島観光協会）入社以来、琵琶湖周航の歌資料館に勤務。
 - ・現在は同協会事務所と資料館館長を兼務。
 - ・琵琶湖周航の歌 100 周年記念事業をはじめ、様々な舞台で「琵琶湖周航の歌」についての講演や解説を実施。

②講演の概要

- ・「琵琶湖周航の歌」誕生の経緯や現在に至るまでの歴史等の解説。
- ・歌詞と歌碑についての解説（航行中、歌詞の舞台に接近したポイントで実施）。
- ・解説に先立ち、「琵琶湖周航の歌」を鑑賞（仕様楽曲：Lefa 版、加藤登紀子版）。
- ・上陸後、今津港の歌碑や琵琶湖周航の歌資料館も案内。



講演の様子



今津港歌碑（左） 琵琶湖周航の歌資料館（右） 見学の様子

③配布資料（抜粋）（琵琶湖周航の歌資料館 提供）

琵琶湖周航の歌

琵琶湖周航の歌資料館

— 歌の誕生 —

大正6年6月、田村第三高等学校水上游（現・京都大学ボート部）の小口太郎らクルーは、学年末（当時7月卒業）の慣例によって琵琶湖周航に出かけた。一行は大津の三保ヶ崎を過ぎ出て、1日目は津松（大津市近江舞子）に泊まり、2日目は、今津の前で横舟をとった。その夜、クルーの1人が「周航途中、小口がこんな詞を作った」と同行の常友に披露した。その詞に、当時後ら学生の間で流行していた歌「ひつじぐさ」の節を乗せるとよくあつたので、その夜クルー仲間ですべて合歌した。

大正6年6月28日、「琵琶湖周航の歌」が誕生の瞬間でした。




小口太郎が乗船しているフィックス艇



小口太郎（上段右側）

— 琵琶湖周航について —

三島では明治26年に初めて琵琶湖周航が行われ、以後学生連による慣例行事になり、昭和15年頃まで行われていた。三保ヶ崎から西岸を北上する時計回りのコースで、4泊5日、もしくは3泊4日の日程で行われ、使われたボートはフィックス艇という漕手6人、舵手1人の固定艇。

※フィックス艇・・・フィックスとはfixから来た言葉で、本来fixed seat（固定座席）のことである。フィックス艇は、狭長く、重く、転速は遅かった。漕手は6人が縦1列に並んで、1人1本のオールで漕ぐものである。「琵琶湖周航の歌」七言五拍子歌で歌われる艇はフィックス。現在、このフィックスの艇はなくなり、艇も残っておらず、ほとんど見ることは出来ない。

4

琵琶湖周航の歌

琵琶湖周航の歌資料館

— 作者を探す —

大正6年に発表された歌詞は、翌大正7年に全巻別6巻までが完成しました。その後、三島の登歌として、学生達の愛唱歌として広まっていきました。

また、多くの歌手がレコードに吹き込み、昭和46年夏、加藤登紀子の大ヒットへと繋がっていった。このころの三島の歌謡には、作詞小口太郎、または、三島ボート部となっていました。小口太郎の人物像すら不詳で、熱心な研究者の手で研究が始められました。

そして、冒頭のような事実が判明していった。曲は「ひつじぐさ」のメロディーを借りたものと判明、昭和64年、ひつじぐさ作曲「吉田千秋」と名前までは特定できた。しかし、身元は不明のままだった。

平成5年6月、今津文化会館（現・高島市民会館）で開催された「琵琶湖周航の歌開示75周年記念イベント」の準備のさなか、実行委員会は「吉田千秋は大正4年に東京から新潟県に転居している」との字がかりを得た。そこで、田今津町役場の職員が、新潟県の地元新聞に消息探しを依頼したところ、偶然にもその記事が関係者の目に止まった。ついに千秋の詳細な人物像が判明した。

大津から舟を渡すにも等しい吉田千秋氏は、急転直下の転居を見たのでした。




5

歌碑 船内には、7箇所8つの歌碑が建立されています。



三保ヶ崎（大津）



津松（近江舞子）



今津



竹生島



長浜



彦根



長命寺（郷）



長命寺（郷内）

8

琵琶湖周航の歌 誕生100周年

美しい琵琶湖の情景を詠った「琵琶湖周航の歌」は2017年、100周年を迎えました。作詞者「小口太郎」と作曲者「吉田千秋」は、互いに顔を見合わせることもなく、この歌を世に残すために生まれてきたかのように若くして亡くなりました。偶然の出会いによって誕生したこの歌は時代を超え、太郎と千秋の想いを繋いで100年経った今もなお多くの人々の心の中で生き続けています。

周航当時、琵琶湖がともきれいであったから、この歌が出たと言えるでしょう。業には、琵琶湖の美しさがいつまでも次世代へ継がれるようにという願いが込められているとも考えられます。100周年の節目に今、「歌」とともに「琵琶湖の歌」を見つめ直す時を迎えています。周航とは象徴的な意味に添った歌であり、「琵琶湖周航の歌」100周年が新たな歴史の始まりと言えよう。

100周年を記念して、京都大学に誕生した歌碑



ヒツジグサ

2001年、高島市今津町で開催された「琵琶湖周航の歌」音楽祭合唱コンクールに出場した新潟市の合唱団に、今津町の自然保護に努むる会によって、蓮にゆかりの小型スイセン「ヒツジグサ」の種が贈られました。養育費で今なお大切に育てられています。そして、歌の発祥の地・高島市今津町でも、琵琶湖周航の歌資料館周辺を中心に、水鏡に映えられた「ヒツジグサ」が可憐に咲き誇っています。

（ヒツジグサ） 多年性水生植物
開花時期 8月～10月
羊の糞（午後2時）頃に開花することから、ヒツジグサと名付けられた



9

(2) 京大ボート部 OB・OG 会「濃青会」ヒアリング

ワークショップにおける議論を深めるため、「琵琶湖周航の歌」生みの親である京大ボート部 OB・OG 会「濃青会」を対象に、歌への思いや琵琶湖周遊観光についてのご意見・琵琶湖周辺の資源の活用方策等についてヒアリングを実施し、参加者への情報提供を実施した。

①ヒアリング対象者

- 京大ボート部 OB・OG 会「濃青会」会員 辻井 昌彦氏
・大津市在住。
・琵琶湖周航の歌 100 周年記念事業では、なぞり周航やびわ湖音楽祭の企画・運営に従事。
・滋賀県各市の観光関係者、事業者などに広範なネットワークを保有。

②ヒアリング概要

ヒアリング日時：2018 年 2 月 27 日 10:00-11:30

ヒアリング場所：アルパック京都事務所

ヒアリング参加者：京大ボート部 OB・OG 会「濃青会」会員 辻井昌彦氏
アルパック 高野・益山・渡邊

③ヒアリング要旨

<ポイント>

- 京大 OB は校歌は忘れても「琵琶湖周航の歌」は忘れない、いわば「故郷の歌」である。
- 「琵琶湖周航の歌 100 周年記念事業」の成果は、歌を通し各地の県民や自治体と温かい交流が出来たこと。
- 観光振興においては、四季折々を通し、滋賀県全体で取り組むことの出来る大きなテーマ・目標が設定できれば素晴らしい。

●「琵琶湖周航の歌」に対する認識について

- ・義務教育課程で習う・県民手帳に載っているなど、滋賀県民の慣れ親しんでいる歌だと感じている。
- ・京大 OB にとっては、校歌は忘れても、「琵琶湖周航の歌」は忘れない。同窓会などで必ず歌う。「琵琶湖周航の歌」が湖国を京大生の故郷にしてくれる。

●平成 29 年 6 月実施「琵琶湖周航の歌 100 周年記念事業」について

【事業の内容】

- ・当事業には県による企画、前知事による企画、濃青会による企画がそれぞれ別であり、展開していく上で適宜合流して実施した。
- ・なぞり周航の際には、関係地域との連携を大切にし、各地で周航員を歓迎する会も開かれた。
- ・後日、歓迎のお礼として、京大で開催した「琵琶湖周航の歌」誕生百周年記念 音楽祭」に各地の関係者を招待し、たくさんの方が参加された。

【事業の成果】

- ・琵琶湖周航の歌が京大ボート部だけの歌ではなく、滋賀県民に広く親しまれている歌であることを認識できた。
- ・各市の地元民や自治体との温かい交流が成され、濃青会と各地とのネットワークが出

来た。

- ・当事業限定記念切手を制作・販売（1 シート 1300 円）したところ、ほぼ完売となる **3500 シート**を売り上げた。切手は往年のボート部写真と今日の名所風景を織り交ぜて構成し、県内外の人が魅力を感じるデザインとした。

●今回の企画についてのご意見

【琵琶湖周遊観光についての意見】

- ・現在の県内各所の観光キャンペーンをさらに発展させて、四季折々の資源など、一定の期間の中で様々な要素を配置し、総合的に PR していくことができれば素晴らしい。
- ・各市が連携し、滋賀県全体として観光事業に取り組むべき。そのための大きなテーマ・目標が必要であり、「琵琶湖周航の歌」は良い素材である。

【訴求力のある琵琶湖の資源】

- ・大津市、三保ヶ崎の疎水取入口（京都市水道局所有の空き地隣接）には三高ヨット部の艇庫有り。ボート部は休憩の際には湖畔で寝そべっており、その様子はセーヌ川の川辺のような風情。琵琶湖疎水船で京都とも繋がる ことが出来る。
- ・JR で二時間半程で琵琶湖を一周できる。島のある風景や対岸の山並みは瀬戸内海のような風情。冬の雪景色等、季節ごとの変化も楽しめる。
- ・森山・草津地域が中心となって開催している ビワイチ（びわ湖一周サイクリング） を軸とした、琵琶湖周辺地域の連携。
- ・キリンビール滋賀工場（多賀町） とのタイアップ地ビール。（琵琶湖周航の打ち上げの際、47 都道府県ビール「滋賀づくり」の提供を受けた）
- ・びわこ成蹊スポーツ大学 との連携（白鬚神社付近での交流、水上スポーツ体験等）、関西ボート協会・滋賀県ボート協会 との連携。水上スポーツ愛好団体は多数あり。
- ・ボートに乗らずとも湖上風景の楽しめる ドローン の活用（テレビ局や新聞社とタイアップ?）。
- ・ボートに乗っても、景色を眺めるだけでは楽しくない。沿岸や上陸してからの体験プログラムを併せて設定していくべき。

→100 周年記念事業では：各地の歌碑前で「琵琶湖周航の歌」を合唱

就航から地元音楽祭へ参加。（高島。加藤登紀子も参加）

④ヒアリング参考資料



びわ湖音楽祭・びわ湖なぞり周航プログラム（保存版）



座談会とアンケートでたどる「なぞり周航」と「第1回びわ湖音楽祭」

3. ワークショップ講演「琵琶湖周航の歌を生かした周遊観光に向けて」

World Café の目標を明確にするため、議論の方針や要点を共有することを目的として、今日の観光の情勢や琵琶湖・滋賀県の優位性を踏まえ、World Café で議論すべきポイントについての講演を実施した。

①講師紹介

- 金井 萬造氏（立命館大学経済学部 客員教授/BKC 社系研究機構 上席研究員）
 - ・工学博士(京都大学)、技術士(港湾・空港)、立命館大学経済学部教授、地方シンクタンク協議会代表幹事、(株)地域計画建築研究所相談役、京都経済同友会幹事、日本観光研究学会評議員等。地域産業振興・まちづくり・地域観光振興の業務から各学会の会長(観光)・副会長(都市計画)を歴任し、2008 年から立命館大学教授。
 - ・著書に「着地型観光」(共著、学芸出版社)、スリランカの地域振興に CBT (着地型観光)手法の教育のマニュアル、中国の大連、JICA の国際技術研修に携わっている。

②講演の概要

- 現代の観光の特徴について
 - 【日本の観光はこの 100 年で大きく変化】
 - ・明治時代の観光は形式的なもの
 - ・1947 年以降、地域振興策として観光事業が注目され始める
 - ・1970 年台はマス観光の時代
 - ・2000 年頃から「新しい観光」として、地域の人が地域の力でもてなす「着地型観光」が重視されるようになる
 - 【「新しい観光」に重要なのは地元の力】
 - ・「資源」ではなく、「資源が地元で愛されているか」によって魅力が生まれる
 - ・インバウンド客など、現代の観光客は地元が観光に冷めていなければ興ざめ
 - ・従来の「物見遊山」ではなく、地元の取組によって「感動を与える」ことが求められる
 - ・地域振興、まちづくりと深く関わり、観光がそれらに以下に資するかも重要なポイントになる
- 「琵琶湖周航の歌」をテーマとする観光のポイント
 - 【「琵琶湖周航の歌」はキーワードの宝庫】
 - ・100 年歌い継がれている「琵琶湖周航の歌」に登場する、自然、季節、文化的景観などは、現代の観光においてポテンシャルがある
 - 【滋賀県の優位性を活かす】
 - ・滋賀県は、自然や文化の豊かな土地が広大な範囲で一定のまとまりを持って存在しており、京都・奈良と差別化できるポイントである
 - ・遠方客・インバウンドには各市ではなく、滋賀県全体で訴求するほうが魅力的であり、他市との連携も意識すると良い
- 本日のワークショップで意識すべきこと
 - 【観光客に共感や感動を与えることを目指す】
 - ・「体験」「学習」観光は感動に繋がりがやすく、現代の観光客に特に重視されるコンテンツ
 - ・得意な季節や、得意なターゲットなど、尖った魅力を追求すべき
 - ・地域をあげて取り組むことのできる、地域で合意できる資源を見出すことが重要

平成 29 年度 びわ湖周遊情報発信事業・びわ湖の魅力体験促進事業
「琵琶湖周航の歌」をテーマとしたワークショップ+湖上観測会 実施報告書



講演の様子

4. ワークショップの成果

「琵琶湖周航の歌」に登場する舞台の所在する 5 市ごとに、観光コースを提案し、「ターゲット」「テーマ」「コース詳細」「セールスポイント」を設定した。また、観光コースに収まらない資源は、「その他資源」としてとりまとめを実施した。

以下より、各市の観光コース及び「その他資源」を掲載する。

(1) 大津市

①参加者（★＝テーブル世話役、◎＝発表者）

びわ湖花街道	課長	高倉 晃一氏
琵琶湖グランドホテル		川崎 重和氏 ★◎
ヨットクラブ神陵	事務局	川口 洋氏
		小林 一恵氏
濃青会	会員	辻井 昌彦氏
大津市観光振興課		藤橋 由佳氏

②「琵琶湖周航の歌」歌詞

1 番 三保ヶ崎 われは湖の子 さすらいの 旅にしあればしみじみと
昇る狭霧や さざなみの 志賀の都よ いざさらば

2 番 雄松崎 松は緑に 砂白き 雄松が里の 乙女子は
赤い椿の 森影に はかない恋に 泣くとかや

③三保ヶ崎におけるアウトプット

●ターゲット

- ・京都を主目的としている観光客

●テーマ

- ・「古い町なみを感じる」
- ・琵琶湖疏水船と京津線を活用することで、京都・浜大津間の接続を向上する

●コース詳細

- ・蹴上 ～（琵琶湖疏水船）～ 浜大津 ～（徒歩）～ 三井寺 ～（徒歩）
～ 疎水沿い散歩 ～（徒歩）～ 歌碑（三保ヶ崎）～（徒歩）～ 古い
町なみ ～（徒歩）～ 浜大津駅 ～（路面電車）～ 京都

●セールスポイント

- ・琵琶湖疏水船と路面電車を乗り継ぎ、京都とセットで観光できる
- ・浜大津エリアは主な名所を徒歩で巡ることが出来る

●その他観光資源

- ・第三高等学校艇庫は「琵琶湖周航の歌」の生まれた当時の姿を残す
- ・瀬田川クルーズ
- ・石山寺（源氏物語）

④雄松崎におけるアウトプット

●ターゲット

- ・若い世代
- ・ファミリー層

●テーマ

- ・「琵琶湖周航の歴史を体験する」

●コース詳細

- ・JR 近江舞子駅 ～ (徒歩) ～ 近江舞子水泳場 ～ (フィックス艇) ～ 歌碑 (雄松崎) ～ (徒歩) ～ 浜巡り ～ (徒歩) ～ 近江舞子水泳場

●セールスポイント

- ・ボート体験
- ・琵琶湖周航の歴史を体感

●その他観光資源

【体験・学習】

- ・雄松館で「琵琶湖周航の歌」学習 (二番の歌詞の生まれた処)
- ・京大所有のフィックス艇及び艇庫を活用 (7人乗り、3艇)
- ・競艇場でのジェットスキー、自転車レース等の開発

【食】

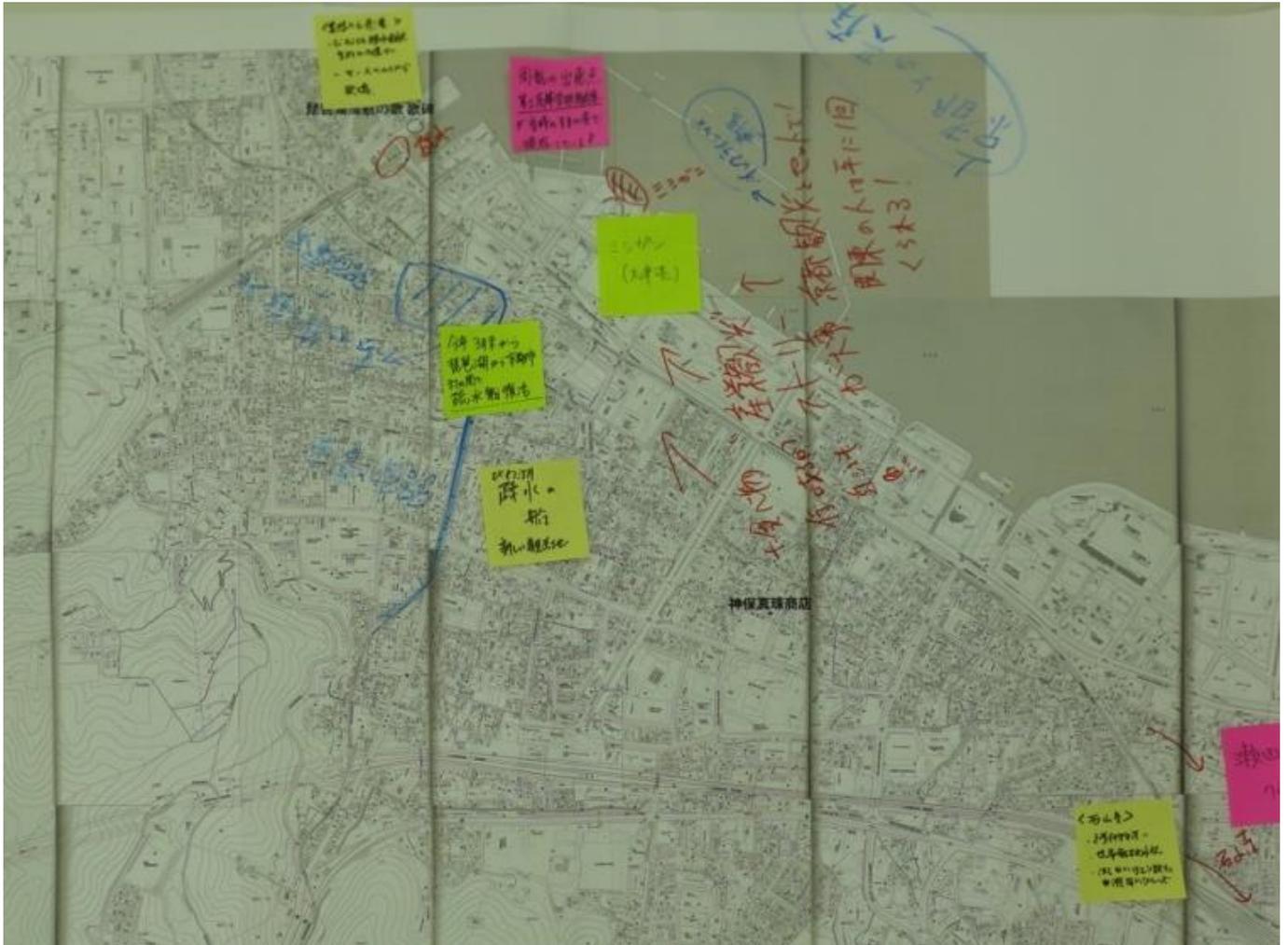
- ・湖魚料理、うなぎ

【その他】

- ・雄琴港クルージング
- ・南比良の橋板の景観
- ・琵琶湖バレイからの眺望、宿泊



平成 29 年度 びわ湖周遊情報発信事業・びわ湖の魅力体験促進事業
「琵琶湖周航の歌」をテーマとしたワークショップ+湖上観測会 実施報告書



(2) 高島市

①参加者 (★=テーブル世話役、◎=発表者)

びわ湖高島観光協会・琵琶湖周航の歌資料館	館長	村井	桂子氏	
びわ湖高島観光協会	局長	飯田	清孝氏	◎
	主任	根来	寛子氏	
三田村印刷株式会社		中島	和彦氏	
今津ガイド勉強会		吉本	眞代氏	
		澤田	浩氏	
		木下	納氏	
高島市役所観光振興課	主事	大槻	朝子氏	★
		和田	至博氏	

②「琵琶湖周航の歌」歌詞

3 番 今津港 波のまにまに 漂えば 赤い泊火なつかしみ
行方定めぬ 浪枕 今日は今津か 長浜か

③今津港におけるアウトプット

●ターゲット

- ・「琵琶湖周航の歌」愛唱者である 60 代以上の高齢者
- ・「琵琶湖周航の歌」愛唱者になり得る若い世代 (京大出身者/県出身者)

●コーステーマ

- ・「琵琶湖周航の歌」発祥の地」

●コース詳細

- ・市街地コース
(ex.琵琶湖周航の歌資料館、ヴォーリズ通り、川魚 (お土産))
- ・自然・里山コース
(ex.琵琶湖の眺望の名所として、平池、海津大崎、函館山、針江)

●セールスポイント

- ・「琵琶湖周航の歌」の生まれたまち (資料館、艇庫)
- ・花の名所 (ひつじぐさ、菖蒲)
- ・豊かな食文化 (発酵食品、川魚、うなぎ、鳥、酒蔵五蔵)

●その他観資源

【体験・学習】

- ・フィックス艇 (2 艇) 市が管理、現在利用の仕組み無し、経験者のみ利用可

【自然名所】

- ・平池の「ひつじぐさ」「菖蒲」の群生地 (市民にも知られていない名所・交通難)
- ・海津大崎の桜
- ・マキノのメタセコイア

【食事処】

- ・大溝 観光弁当
- ・西友 (うなぎ、川魚)、魚清 (うなぎ焼き)

(3) 長浜市

①参加者 (★=テーブル世話役、◎=発表者)

株式会社ロハス長浜	総括マネージャー	前川 和彦氏	★◎
ながはま琵琶湖周航の歌 100 周年記念事業実行委員会		丹部 均氏	
		松本 長治氏	
公益社団法人びわこビジターズビューロー	事務局長	天川 隆男氏	
	事務局長	佐々木 由紀氏	
株式会社日本旅行 草津支店	支店長	岡本 弘二氏	

②「琵琶湖周航の歌」歌詞

4 番 竹生島 瑠璃の花園 珊瑚の宮 古い傳への 竹生島
仏の御手に いだかれて ねむれ乙女子 やすらけく

③竹生島・長浜市内におけるアウトプット

●ターゲット

【日帰りコース】

- ・個人・少数旅行者

【宿泊コース】

- ・日帰りコースに加え、中高年

●テーマ

【日帰りコース】

- ・「そぞろ歩き」
- ・「自分だけの長浜を見つける」

【宿泊コース】

- ・日帰りコースに加え、「長浜を起点に奥へ」

●コース詳細

【日帰りコース】

- ・まちなかそぞろ歩き (黒壁 or 北側・職人街 or 南側・商人街、うなぎの寝床) ～ 琵琶湖岸・夕日百選の夕焼け

【宿泊コース】

- ・まちなかそぞろ歩き ～ 琵琶湖岸・夕日百選の夕焼け ～ 長浜北部・木之本/余呉で宿泊

●セールスポイント

- ・多様な魅力「ガラスだけじゃない長浜」

●その他観光資源

【自然名所】

- ・木本町山梨子、水が綺麗なスポット

【観光スポット】

- ・慶雲館
- ・北国街道・安藤家（北大路魯山人）
- ・湖北の暮らし案内所「どんどん」（鴨を飼育しており、声をかけたら寄ってくる）
- ・大通寺／長浜鉄道スクエア（H30 から D51 展示）

【食事処】

- ・カフェ&パブ ロンドン
- ・翼果楼「鯖そうめん」お土産におすすめ

【その他】

- ・長浜農業高校にボート部あり



(4) 彦根市

①参加者 (★=テーブル世話役、◎=発表者)

近江トラベル株式会社	次長	山本 正人氏	★
近江鉄道株式会社	所長	前田 利徳氏	
滋賀中央観光バス		角田 大祐氏	◎
		村上 和利氏	
公益社団法人びわこビジターズビューロー	主任主事	吉原 康史氏	
株式会社日本旅行 本社 教育旅行部	所長	弘中 康生氏	

②「琵琶湖周航の歌」歌詞

5 番 彦根港 矢の根は 深く埋もれて 夏草しげき 堀のあと
古城にひとり 佇めば 比良も伊吹も 夢のごと

③彦根港におけるアウトプット

●ターゲット

- ・京阪神エリアの中高年（特にリピート促進に注力）

●テーマ

- ・「〇〇体験で彦根城と彦根港をつなごう！」

●コース詳細

- ・彦根城（歴史観光、お堀散策） ～ 体験（お茶、着物、和菓子） ～ 歌碑（彦根港） ～ 夕焼け ～ サンセットクルーズ
- ・マイカーの他、人力車、お堀の小舟、レンタサイクル、徒歩で移動可能

●セールスポイント

- ・「国宝・彦根城で〇〇出来る」
- ・ホンモノの〇〇を体験出来る

●その他観光資源

【体験・学習】

- ・ボランティアガイド 80 名 城下町ガイド有り

【観光スポット】

- ・夢京橋キャスルロード（滞在時間 60～90 分）

【食】

- ・近江ちゃんぽん
- ・井伊家のお茶+和菓子

【その他】

- ・芹川・河原町が伝建地区に指定

(5) 近江八幡市

①参加者 (★=テーブル世話役、◎=発表者)

近江八幡観光物産協会

主任 林 昌代氏

堀添 来夢氏

近江八幡市文化振興課

主事 岡地 竜男氏 ★◎

公益社団法人びわこビジターズビューロー

部長心得 船橋 寛明氏

主幹 梅田 茂樹氏

株式会社日本旅行 草津支店

課長 森田 寿典氏

②「琵琶湖周航の歌」歌詞

6 番 長命寺 西国十番 長命寺 汚れの現世遠く去りて
黄金の波に いざ漕がん 語れ我が友 熱き心

③長命寺におけるアウトプット

●ターゲット

- ・中高年 (40~60 代)

●テーマ

- ・「近江八幡長命物語と命の洗たく」

●コース詳細

- ・長命寺 ~ むべ狩り体験 ~ 近江牛(昼食) ~ フィックス艇体験(夕日鑑賞)
~ 休暇村宿泊(夕食・琵琶湖八珍/琵琶湖周航の歌 PV 鑑賞) ~ 沖島クルーズ
(漁船で漁師ガイド) ~ 水郷めぐり ~ ラ・コリーナ(お土産)
- ・長命寺は 2017 年草創 1300 年記念で特別公開を実施

●セールスポイント

- ・「今から青春始めます」
- ・「健康長寿(心も体も)」長命寺やむべは長寿に関係が深い
- ・近江牛や琵琶湖八珍など地元の“うまいもん”を食べつくす

●その他観光資源

【体験・学習】

- ・水荃焼 陶芸の里(ピクニックランチ)
- ・安土城郭資料館・甲冑体験
- ・かわらミュージアム「はちまんかわら焼き」体験
- ・新町通(近江商人の町なみ)

【観光スポット】

- ・宮ヶ浜
- ・シャーレ水が浜(歌詞に合う、女子向け)
- ・藤ヶ崎龍神(パワースポット)
- ・八幡山(恋人の聖地・豊臣秀次の歴史)
- ・たねや

【食】

- ・沖島めし(湖島婦貴の会)
- ・ビワマスのじゅんじゅん

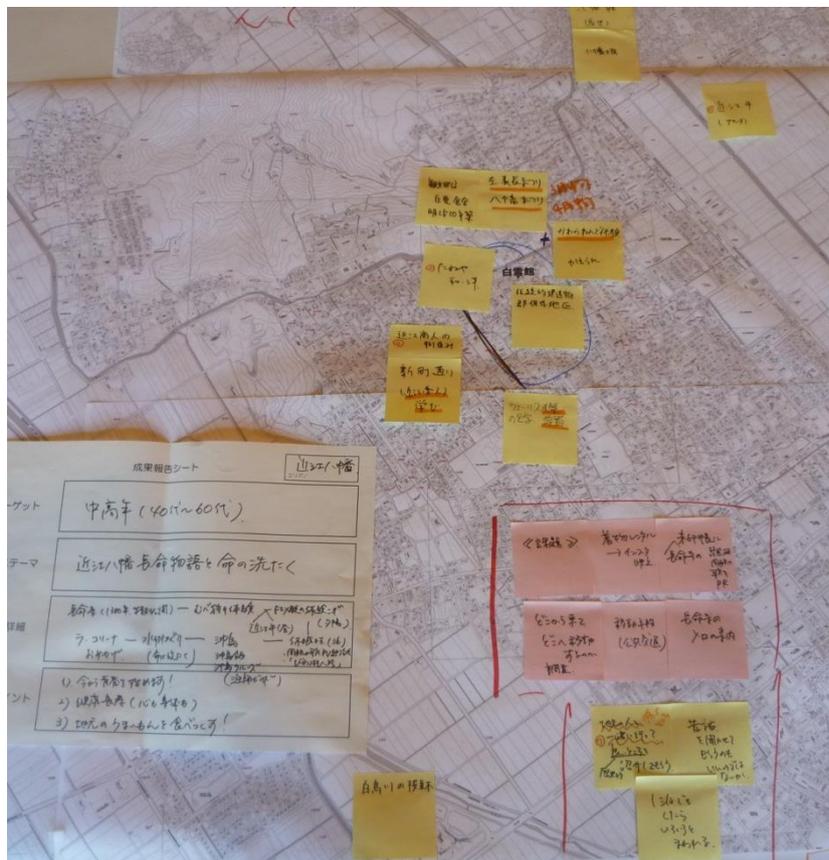


平成 29 年度 びわ湖周遊情報発信事業・びわ湖の魅力体験促進事業
 「琵琶湖周航の歌」をテーマとしたワークショップ+湖上観測会 実施報告書

- ・鮒ずし
- ・ブラックバスの唐揚げ
- ・むべサイダー

【その他】

- ・左義長まつり（3月中旬）
- ・八幡祭（4月中旬）
- ・白鳥川の桜並木



5. ワークショップ・湖上観測会の参加者アンケートの分析

ワークショップ終了後、参加者へのアンケートを実施した。

(1) 概要

配布・回収方法：ワークショップ終了後、参加者に記入依頼し、その場で回収

回収数：23 件（ワークショップ参加者数=25 名）

集計方法：①単純集計（すべての設問について割合を算出し、グラフと表を掲載）

②自由回答（同種の意味を持つ回答のグループ分けを実施し、近しいグループごとに整理して掲載）

(2) 分析結果

- ・「琵琶湖周航の歌」は滋賀県の県民歌として認識する参加者が多く、ワークショップに参加したことで、認識の深化や観光振興への活用意欲の向上が見られた。
- ・ワークショッププログラムは概ね好評であり、より実現性のある検討に向けて、モニターツアーに期待する意見も見られた。
- ・総じて「琵琶湖周航の歌」活用について好意的な評価を得られており、今後も継続して取組を実施していくことが求められる。

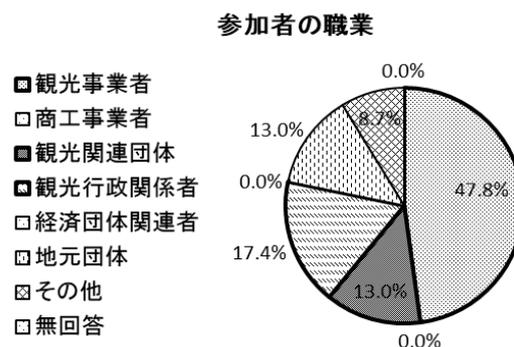
(3) 詳細結果

①基本情報

1) 参加者の職業[sa]

- ・「観光事業者」「観光関連団体」「観光行政関係者」が 8 割を占めています。

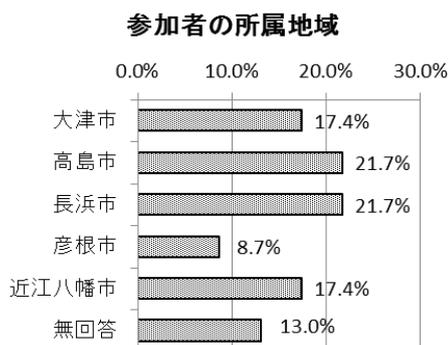
		n= 23	
No	項目	n	%
1	観光事業者	11	47.8%
2	商工事業者	0	0.0%
3	観光関連団体	3	13.0%
4	観光行政関係者	4	17.4%
5	経済団体関連者	0	0.0%
6	地元団体	3	13.0%
7	その他	2	8.7%
8	無回答	0	0.0%
計		23	100.0%



2) 参加者の所属地域[sa]

- ・「大津市」「高島市」「長浜市」「近江八幡市」が 2 割ずつ、「彦根市」が 1 割となっています。

		n= 23	
No	項目	n	%
1	大津市	4	17.4%
2	高島市	5	21.7%
3	長浜市	5	21.7%
4	彦根市	2	8.7%
5	近江八幡市	4	17.4%
6	無回答	3	13.0%
計		23	100.0%



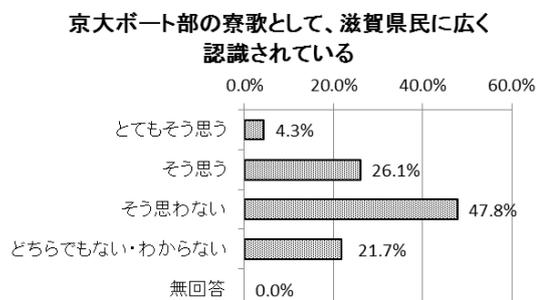
② 「琵琶湖周航の歌」をテーマとする観光進行について

1) 「琵琶湖周航の歌」に対する認識について[sa]

A. 京大ボート部の寮歌として、滋賀県民に広く認識されている

・「とてもそう思う」「そう思う」の合計が3割となっています。

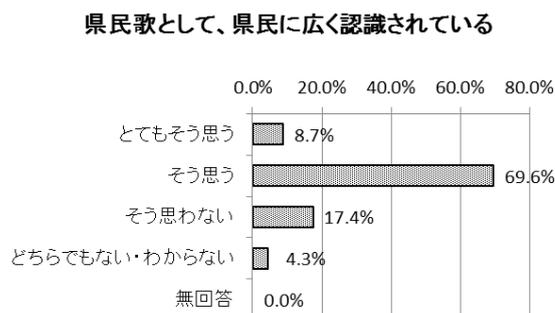
		n= 23	
No	項目	n	%
1	とてもそう思う	1	4.3%
2	そう思う	6	26.1%
3	そう思わない	11	47.8%
4	どちらでもない・わからない	5	21.7%
5	無回答	0	0.0%
計		23	100.0%



B. 県民歌として、県民に広く認識されている

・「とてもそう思う」「そう思う」の合計が8割となっています。

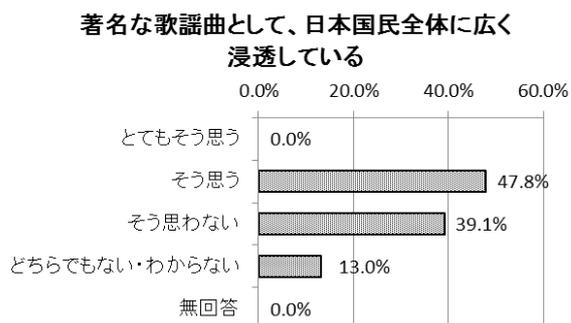
		n= 23	
No	項目	n	%
1	とてもそう思う	2	8.7%
2	そう思う	16	69.6%
3	そう思わない	4	17.4%
4	どちらでもない・わからない	1	4.3%
5	無回答	0	0.0%
計		23	100.0%



C. 著名な歌謡曲として、日本国民全体に広く浸透している

・「とてもそう思う」「そう思う」の合計が5割となっています。

		n= 23	
No	項目	n	%
1	とてもそう思う	0	0.0%
2	そう思う	11	47.8%
3	そう思わない	9	39.1%
4	どちらでもない・わからない	3	13.0%
5	無回答	0	0.0%
計		23	100.0%



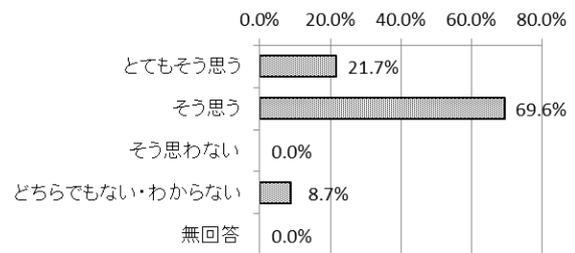
2) 「琵琶湖周航の歌」の観光振興への活用について[sa]

A. 観光資源として大いに期待でき、活用していきたい

・「とてもそう思う」「そう思う」の合計が 9 割となっています。

		n= 23	
No	項目	n	%
1	とてもそう思う	5	21.7%
2	そう思う	16	69.6%
3	そう思わない	0	0.0%
4	どちらでもない・わからない	2	8.7%
5	無回答	0	0.0%
計		23	100.0%

観光資源として大いに期待でき、活用していきたい

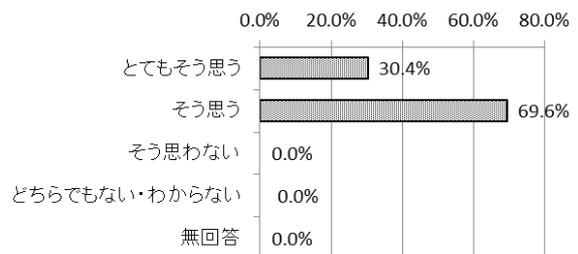


B. 県内の自治体・事業者と協力し、広域な観光振興を推進していくべきである

・「とてもそう思う」「そう思う」の合計が 10 割となっています。

		n= 23	
No	項目	n	%
1	とてもそう思う	7	30.4%
2	そう思う	16	69.6%
3	そう思わない	0	0.0%
4	どちらでもない・わからない	0	0.0%
5	無回答	0	0.0%
計		23	100.0%

県内の自治体・事業者と協力し、広域な観光振興を推進していくべきである

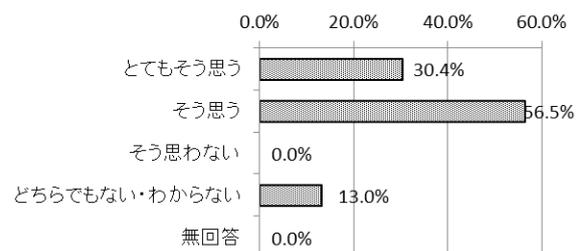


C. 単発の取組ではなく、1年を通して四季折々の観光メニューを提供すべきである

・「とてもそう思う」「そう思う」の合計が 9 割となっています。

		n= 23	
No	項目	n	%
1	とてもそう思う	7	30.4%
2	そう思う	13	56.5%
3	そう思わない	0	0.0%
4	どちらでもない・わからない	3	13.0%
5	無回答	0	0.0%
計		23	100.0%

単発の取組ではなく、1年を通して四季折々の観光メニューを提供すべきである



③「琵琶湖周航の歌」についての自由なご意見[fa]

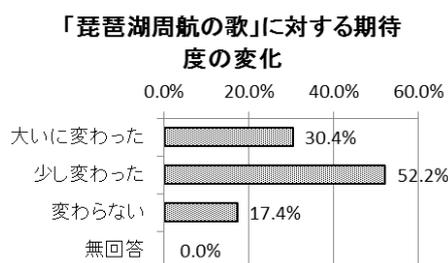
- ・広域連携への期待、関連する資源についての意見が寄せられています。

広域連携に活用すべき (2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携を今後も検討すべきである ・歌を用いて広域での連携を進め、県全体での取組み（周遊ルートを作成）が必要であると感じた。
関連する資源 (1件)	<ul style="list-style-type: none"> ・びわ湖汽船の船を有効的に活用すべき

④ワークショップに参加して「琵琶湖周航の歌」に対する期待度が変化したか[sa]

- ・「大いに変わった」「少し変わった」の合計が8割になっています。

		n= 23	
No	項目	n	%
1	大いに変わった	7	30.4%
2	少し変わった	12	52.2%
3	変わらない	4	17.4%
4	無回答	0	0.0%
計		23	100.0%



⑤④について、変化の内容[fa]

- ・「琵琶湖周航の歌」についての「興味・関心の喚起」や、「他市との連携への意欲」に多くの意見が寄せられています。

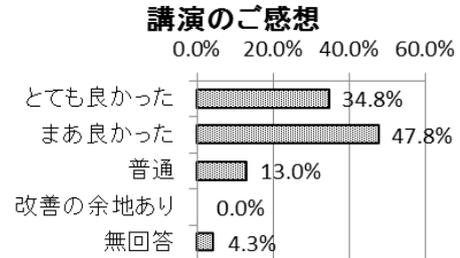
興味・関心の喚起/変化 (6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・年代的にあまり歌のことを知らなかったが、今回のワークショップをきっかけにより知ることができた。 ・歌について初めて聞いたが、歴史があって興味がわいた。 ・琵琶湖周航の歌のなれそめを初めて知った。 ・歌は知っていたが、その成り立ち、背景を知ることができてよかった。 ・いろいろ素材があるのにビックリして、歌の歴史にも興味がもてた。 ・琵琶湖周航の歌を色々な角度で考えられた。
他市との連携への意欲 (5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・連携して観光を推進すべき。 ・高島だけで発信するのではなく、広域に売り出す方が良い。 ・自市以外の市町や団体が、周航の歌に対して観光資源としてどのような認識を持っているかを確認できた。前向きな意見もあり、期待値があがった。 ・滋賀県全体で宿泊も兼ねて観光に活かしていく又は何度でも来ていただき琵琶湖を周航していただけるルートを作る。 ・各地の歌碑などの関係者が協力することを期待している。
観光資源としての評価の向上 (2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源として活用できる ・歌及び歌碑を中心に考えたモデルコースが多く作れることが分かった。

⑥ワークショッププログラムについて

1) 講演のご感想[sa]

・「とても良かった」「まあ良かった」の合計が8割となっています。

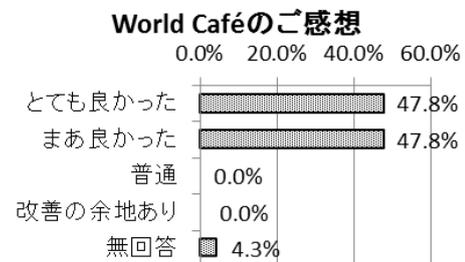
		n= 23	
No	項目	n	%
1	とても良かった	8	34.8%
2	まあ良かった	11	47.8%
3	普通	3	13.0%
3	改善の余地あり	0	0.0%
4	無回答	1	4.3%
計		23	100.0%



2) World Caféのご感想[sa]

・「とても良かった」「まあ良かった」の合計が9割となっています。

		n= 23	
No	項目	n	%
1	とても良かった	11	47.8%
2	まあ良かった	11	47.8%
3	普通	0	0.0%
3	改善の余地あり	0	0.0%
4	無回答	1	4.3%
計		23	100.0%



3) 各グループの報告の中で、面白いと思う地域及びそのポイント[fa]

・提案コースへの評価や、コース内の期待できる資源の指摘が多く寄せられています。

●大津市／三保ヶ崎(8件)

琵琶湖疎水と路面電車 (5件)	・琵琶湖疎水×3 ・疎水を利用し京都から浜大津を接続 ・路面電車のコース
レトロな旅 (2件)	・疎水と京阪電車のレトロ感 ・レトロな旅
期待できる資源 (1件)	・三高艇庫

●長浜市／竹生島及び長浜市内(5件)

多彩な資源(1件)	・中心から夕陽、北部で宿泊というコース提案
期待できる資源 (3件)	・黒壁スクエア×2 ・歌碑周辺の琵琶湖夕日
その他(1件)	・竹生島に人が住んでいることを初めて知った

●大津市／雄松崎(4件)

フィックス艇体験 (2件)	・フィックス艇体験×2
期待できる資源 (2件)	・雄松館 ・びわ湖テラス

●彦根市／彦根港(6件)

彦根城への期待 (6件)	・彦根城×2 ・彦根港から彦根城までのガイドさん付き街歩き ・彦根城+体験 ・城を生かした観光 ・堀の水路
--------------	---

●高島市／今津港(5件)

「琵琶湖周航の歌」の活用 (3件)	・「琵琶湖周航の歌」を全面に出すコンセプト ・琵琶湖周航の歌資料館、歌碑、三高生が通ったであろう道の散歩(街歩き) ・資料館のアピール
期待できる資源 (2件)	・酒蔵 ・自然(森)を生かした観光

●近江八幡市／長命寺(7件)

多彩な資源(2件)	・まとまった観光資源をもっておられるので、内容の濃いプランを提示できると感じた。
期待できる資源 (5件)	・中高年向けのプログラムとして、今から青春を始められるところ、「健康長寿」というテーマ ・長寿のむべ×2 ・水郷めぐり、船頭体験 ・市内観光、沖島ツアー ・ラ・コリーナの人気の高い

4) 今後改善すべきこと [fa]

・ワークショップへの改善案のほか、付随するプログラムへの提案も寄せられています。

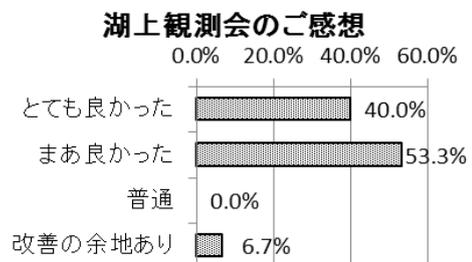
ワールドカフェについて (3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットを決めてもおもしろそう。 ・もっと別の地域の方の意見が聞ければよかった。 ・ワークショップの時間をもっと長く。
明確なテーマ設定・共有 (2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりにくかった。もう少しテーマにそって観光なのか集客なのか周航の歌なのかかわかるとよかった。 ・ワークショップの目的や方向性を最初に参加者全員が把握する事が前提なので、そこを初めにわかりやすく説明してほしい。
プログラムの構成について (2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・1回だけで終わることなく継続して実施してほしい。 ・すべての街に一度ガイド付きで歩いたりしてからの方が話が出やすいのでは。

⑦湖上観測会について（参加された方のみ回答）

1) 湖上観測会のご感想 [sa]

・「とても良かった」「まあ良かった」の合計が9割となっています。

No	項目	n= 15	
		n	%
1	とても良かった	6	40.0%
2	まあ良かった	8	53.3%
3	普通	0	0.0%
3	改善の余地あり	1	6.7%
計		15	100.0%



2) 今後改善すべきこと [fa]

・「快適さの改善」について意見が寄せられています。

快適さの改善 (2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・船酔い対策が必要。 ・天候がいい季節の方がいいのではないかな。
----------------	---

⑧モニターツアーへのご意見 [fa]

・ツアーへの期待や提案の意見が寄せられています。

ツアーへの期待 (5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・より現実的なツアーになるよう、参加された方の意見を聞いてみたい。 ・新鮮な意見がたくさん出るように望む。 ・期待しています！ ・楽しみだ。 ・周航の歌は、県内に点在する観光地をつなぐ良いツールだと思います。一方で、見る場所が限られ、また、手を広げすぎるとテーマがブレしてしまうという点で大変扱いが難しいテーマだと思います。お客様のお声等、また各市町に還元して頂ければと思います。
ツアーへの提案 (2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・村井館長の説明が大変わかりやすくよかった。 ・期間が短いのでは！

6. 参加者名簿

※○：湖上観測会に参加

●ワークショップ参加メンバー		(敬称略)	
大津市	びわ湖花街道 課長	高倉	晃一○
	琵琶湖グランドホテル 商品企画部長	川崎	重和
	京大ボート部 OB 濃青会	辻井	昌彦○
	ヨットクラブ神陵 事務局	小林	一恵○
	ヨットクラブ神陵 事務局	川口	洋 ○
	大津市観光振興課	藤橋	由佳○
高島市	三田村印刷株式会社	中島	和彦
	今津ガイド勉強会	吉本	眞代
	今津ガイド勉強会	澤田	浩
	今津ガイド勉強会	木下	納
	びわ湖高島観光協会 「琵琶湖周航の歌資料館」館長	村井	桂子○
	びわ湖高島観光協会 局長	飯田	清孝
	びわ湖高島観光協会 主任	根来	寛子
	高島市役所観光振興課 主事	大槻	朝子○
	高島市役所観光振興課	和田	至博
長浜市	株式会社ロハス長浜 総括マネージャー	前川	和彦○
	ながはま琵琶湖周航の歌 100 周年記念事業実行委員会	松本	長治○
	ながはま琵琶湖周航の歌 100 周年記念事業実行委員会	丹部	均 ○
彦根市	近江トラベル株式会社 次長	山本	正人○
	近江鉄道株式会社 所長	前田	利徳
	滋賀中央観光バス	村上	和利
	滋賀中央観光バス	角田	大祐
近江八幡市	近江八幡観光物産協会 主任	林	昌代 ○
	近江八幡観光物産協会	堀添	来夢○
	近江八幡市文化振興課 主事	岡地	竜男
●事務局	公益社団法人びわこビジターズビューロー	事務局長	天川 隆男○
	〃 広報情報部	部長心得	船橋 寛明○
		主幹	梅田 茂樹○
		主任主事	吉原 康史○
		事務局員	佐々木 由紀○
株式会社日本旅行 草津支店		支店長	岡本 弘二○
		課長	森田 寿典○
〃 本社 教育旅行部		所長	弘中 康夫○
株式会社地域計画建築研究所		高野	隆嗣○
		高田	剛司○
		武藤	健司○
		江藤	慎介○
		山部	健介
		益山	周三
〃	インターン生 (岡山大学 3 回生)	吉田	遥那○